

C-2 度量換算等エピソード

用地・補償業務に携わっていて、時としてアレアレ!! と思う数値に出合う事がある。

もっとも、日常の生活にあっても、この新聞紙を折り畳んでいくと、どの位の厚さになるのかな? とか、我が家の浴槽は人間を詰め込むとすると何人ぐらい入るのかな? はたまた、私の10代前の先祖は一体何人いて、それで今の自分か……。あげくの果てに、100年を1cmとした歴史年表を作ってみたいが、地球誕生の46億年となるとどれ位の長さのロールペーパーが必要なのか? などといった採り止めのない数値に対する興味と畏敬の念が湧いてくる。

この辺りについては位取りを間違わないようにして計算すれば問題なく数字をはじき出せるのだが、何れにしても驚くような数値です。因みに、新聞紙は25回で富士山より高くなるんです。序の時でも一緒に遊んでみましょう。

今回は、聊か仕事に関係のある換算数値とエピソード、目安の基準等を紹介します。

【面積】 反(たん)・畝(せ)・歩(ぶ)

……「計量法」の施行により現在は公用しないこととされていますが、農地の現場等にあってはまだまだレッキとした存在感を主張しますし、それでないと話が進まない時もある。

1町歩	⇒	3000歩(坪)	⇒	10反	約	9,917.3553 m ²
1反歩	⇒	300歩(坪)	⇒	10畝	約	991.7355 m ²
1畝歩			⇒	30歩		
1歩(坪)					⇒	約 3.3058 m ²

ヒョイと言われて広さの見当を換算しにくいポイントは畝歩にありそうです。この単位だけ10進法でないのです。たしかに30坪というのは5間×6間で、視覚としてその広さを直感的にとらえることができ、一方で田畑の標準区割りも関係してか、30坪以上は別の単位に置き換えた先人達の農地に対する思い入れが伝わって来そうです。それにしても反・畝・歩の呼び方で、よく種籾の準備などの目安をつけたものだと感心させられます。

現在は、登記・台帳等もこの表示がないので混乱しませんが、若い時分の私などは、10倍の感覚で暗算し失敗した事がある。注意しなければなりません。

因みに、一時期担当した“つくば”方面では、平地における土地改良事業の1反歩の区画を、機械耕うんの便を考慮してか、取水の均等性等の配慮からか約14m×7.1mを指針とする、という事を農業改良普及員から聴いて忘れられない。

【体積】 石(こく)数

建築木材の材積を、往時補償でも石数で表していたことがあった。木なのに石と

は・・・などと思ったこともあったが、一石は 0.278 m^3 である。

即ち、1石とは、 $1 \text{ 尺} (0.303) \times 1 \text{ 尺} (0.303) \times 10 \text{ 尺} (3.03\text{m}) = \text{約 } 0.278 \text{ m}^3$
で、いかにも木材をイメージした時の数量単位に相応しいではないですか。

因みに、 $1 \text{ m}^3 = 3.58 \text{ 石}$ である。

ここで又、混乱する。容積の場合にも 石（こく）が出てくる。『斗酒なお辞せず』のあなた、10斗を一石と云っていたことを思い出してください。この同じ単位のようにも量が違うのです。

こちらの場合、1石 \Rightarrow 10斗 = 100升 （無論1斗は10升です。）
= 0.18039 m^3 因みに、 $1 \text{ m}^3 = 5.54 \text{ 石}$

【重さ】 換算の問題は特にないが、目安を記憶する格好の数値がある。

男子成人の標準体重《標準について異義ある方も多いと思われませんが・・・。》

$60 \text{ kg} \Rightarrow$ (調度) 16貫 なのです。尺貫法も捨てたものでありません。

つまり、 $3.75 \text{ kg} = 1 \text{ 貫}$ で、 $1 \text{ kg} = \text{約 } 0.267 \text{ 貫}$

【厚み①】 ビニールハウスのビニールの薄さ

現地調査していて、畑にあった一般的パイプハウスのビニールに眼が止まった。たしか、三菱化成と憶えているが、ビニールの品番規格が小さく印字されていた。それは眼を疑がうような数字で「ノービエース 0.01 mm 」とあった。本当に100分の1ミリか、あの1ミリの100分の1か？

ハウスの裾のほうをこっそり破いて持ち帰って折り畳んでみた。埃とか皺と、遠慮して小さい切れ端のため幾重にも畳めなかったが、たしかに5、6回重ねても1mm以下だった。よくもこんな薄さで丈夫な物だと本当に感心したことがあった。

【厚み②】 銅板葺屋根の銅板の厚さ

以前相当にお世話になった権利者の、移転に伴う新築家屋は避雷針まで付けた銅板葺の潇洒な和風住宅である。野菜は“安くて出盛りの物を煮炊きして食べるのが良い。ドレッシングをかけたからといって年中見栄えだけのいい生野菜ばかりでは、量も養分も取れてないに決まっている。その時期にその物を、という自然の摂理のままが一番だ。”等と明瞭に持論をいつも話してくれた尊敬する方である。

この銅板の厚みはどれぐらいだと思いますか。何十年も風雨に曝すのだから多分に3~4mm位は、と建築技術者でもなければそう考えるのですが、サニならず。

このお宅の場合は0.4mmで、それでも厚い方だそうです。それ以上だと「接合部」とか「鉤(ケラバ)」等の現場での曲げ加工が限界で、無理に加工しようとするれば曲げ部分に歪とか、金属的疲労が集まってしまうものらしい。これも案外なものだ。

「度量衡換算表」について、手元にある「用地実務必携（手帳）」等多くのものが出されていますが、それでも尺貫法との対照はさすがに少なくなっている。

今回は、業務に関連したエピソード風なことを少し冗長に取り上げてみましたが、まだまだ、置き換え数値とか、要領のよい覚え方があるようです。

以 上